

シネマズライフ

たかぎ りおん
貴樹 諒音

2016年3月18日発行 第100号 <http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

【最近のこれはお見事!】『殿、利息でAmo...』

仙台藩の吉岡宿では、年貢の重圧から廃れるばかり。造り酒屋の主・榎田屋十三郎は、自称知恵者、菅原屋篤平治と妙案を思いつく。妙案がどうかはわかりませんが、題名はなかなかだと思えます。

【最近のこれはまずいぞ!】『呪い襲い殺す』

ホラーに徹してドロドロ感満載で、この題名は逆に清々しい作品。劇場未公開作品、DVD発売。

映画の風景 日本の風景

水 沖 縄 水



『さくらば箱舟』という映画があった。こんな映画だ。

時代はいつなのか?

老人と少年が無数の時計を荷車で運び、海岸に穴を掘りすべての時計を埋めた。老人は言う、

「これで時間は本家だけのものになるわー」
そして、村は本家を中心に時間がすぎる事になった...

数年後、村を仕切るのは少年だった大作。村人は「時間」を知りたければわいわい本家に行かなければならないが、仲よく暮らしていた。

そんな頃、村人の指言とスエが結婚した。二人は(いとこ(周土)。実は村には《血筋の近い者は結婚してはならぬ》と決められており、その為スエは父親に《等

の形の貞操帯》を付けられ、指言とは真の夫婦にはなれずいた。

二人は村人にはからかわれながらも暮らすが、ある日、大作に侮辱され指言は殺してしまふ。指言は、スエを連れて村を逃げ出す。

漆黒の闇を逃げに逃げやがて見つけた小屋は、なんと、元の二人の暮らしていた小屋だった。

しばらくして、指言の前に死んだ大作が現れるようになる...

鬼才・寺山修司の遺作。

《古時計》《時間のない村》《生きてる者と死んだ者》《漆黒の闇》《薄れていく記憶》《近づいてくる未来》...そして、大きくなつていく穴。そこには、何があるのか?

それは、見る者が感じて思うしかない。寺山修司監督は病を押して沖縄で撮影。ほとんどの編集を途えこくした。寺山ワールドを描くには一番の場所だったようだ。

『さくらば箱舟』1982年 日本 監督 脚本：寺山修司 脚本：岸田理生 音楽：J・A・シーザー
出演：山崎努 小川真由美 原田芳雄 新高恵子 高橋洋子 高橋ひとみ 石橋蓮司 若松武 三上博史 小坂方正 宮口精二

原作はガルシア・マルケスの『百年の孤独』。しかし、原作者と揉め、結局題名と原作クレジット削除で許可を得たという。若らしい高橋ひとみ・三上博史が出演。見どころの一つ。

コラム
とうとう100回に
なつてしまった件

『シネマズライフ』を発行してから、およそ4年半。今号で100号になりました。これも、『シネマズライフ』を読んで頂いている方々、応援して頂いている方々のおかげです。

ありがとうございます

全作品550本以上よく紹介できたものです。

【映画の風景 日本の風景】は、日本の風景・舞台を重なる映画を紹介。

【on air.】は、CS・BSでオンエアする作品でおすすめする映画を紹介。
2ページには、私の好きな映画・皆さんに見てほしい映画



↑ヒヨウモンチヨウと百日草

を紹介。

以上はほとんど映画館で鑑賞、他はDVDで見えています。

【最近のこれはお見事!】
【最近のこれはまずいぞ!】
は、下記の通り題名のご紹介。未見が多いですが、妙に題名だけ面白い映画もありそのご紹介です。

映画が大好き。よい映画・面白い映画をたくさんの人に読んでもらいたいと思いはじめた本誌ですが、少しは皆さまの映画鑑賞のお役に立てて頂けたら思っています。

もう、これで終わりにしようかとも思ったのですが、まだまだ紹介したい映画もあり、続けようと思えます。

今後よろしく

お願いします

☆【最近のこれはお見事!】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ!】は「これは、まずいぞ!」と思う題名を紹介しています。

on air !

CS・BS放送のオススメ映画を紹介！

CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もあります。m(_ _)m

『ソルト』

ムービープラス

2010年 アメリカ

監督：フィリップ・ノイス

出演：アンジェリーナ・ジョリー リーヴ・シュレイパー
キウエテル・イジョフォー ダニエル・オルブリフスキ

3月19日(土) 20:55 3月20日(日) 13:30
3月22日(火) 21:00 3月31日(木) 13:30

CIA分析官イヴリン・ソルトは、普通のOLを装い結婚をし一般人として生活をしていた。ある日ソルトは、ロシアの密告者オルロフの尋問を行ったところ、オルロフは驚愕の告白をした。なんと、今アメリカ訪問中のロシアの大統領の暗殺計画されており、その為アメリカにロシアのスパイが送り込まれており、そのスパイの名が【ソルト】だということだ。身に覚えのないソルトは驚き否定するが、誰も信じてもらえない。夫にも会わせてもらえず、その上夫にも疑いがかかる事を察したソルトは逃げ出す。勤めていたCIAに追われる身となったソルトだったが…。

CIAの内部事情がのぞけて面白い。当初はソルトの役はトム・クルーズが演じる予定だったが、アンジェリーナ・ジョリーに変更。これがなかなかよかったと思う。やっぱり、アンジェリーナ・ジョリーは映画で演じているのが一番いいと思った。

『消されたヘッドライン』

ザ・シネマ

2009年 アメリカイギリス

監督：ケヴィン・マクドナルド 原作：ポール・アポット

出演：ラッセル・クロウ ベン・アフレックレイチエル・マクアダムス
ヘレン・ミレン ロビン・ライト・ベン・ジェフ・ダニエルズ

3月21日(月) 14:00 3月24日(木) 21:00
3月26日(土) 14:00

ある日、地下鉄で国会議員スティーヴン・コリンズのスタッフ、ソニアが事故で亡くなった。ソニアは、軍事企業ポイントコープ社の不正を質す公聴会に参加する直前の出来事だった。単なる事故と思われたが、コリンズ議員の様子から、彼とソニアとの不倫を問われ、スキャンダルに。しかし、ワシントン・グローブ紙のベテラン記者カルは、コリンズ議員の友人でこれは「ポイントコープ社」絡みの事件ではないかと思い調べ始め、この事件とその前日に起こった無関係と思われる事件との関係に気づく…。

ドキュメント出身の監督だけに、サスペンス感バツグン！原作は、イギリスのドラマの映画化で実際は、石油会社のスキャンダルを扱っているという。このドラマの結末とこの映画の結末は同じなのかは知らないが、この映画の結末は「はっ〜？」と思ったのは私だけ？

★読んで頂いてありがとうございます。よろしかったらコメントで「感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願ひします！」

『E.T.』

1982年 アメリカ
監督：スティーヴン・スピルバーグ
音楽：ジョン・ウィリアムズ

出演：ヘンリー・トーマス ティー・ウォーレス
ドリコウ・バリモア ビーター・コヨーテ

りう。翌日、母・メアリ、マイケル、妹
宇宙人を見てしま
もう一度外に出て
の夜、エリオットは
は異常がない。そ
呼ぶがもう小屋に
音がした為友達を
ろ、物置小屋から
に玄関を出たところ
んな時ピザを取り
不満タラタラ。そ
入れてもらえず、
ゲームに
達の遊ぶ
と兄の友
マイケル
は、オット
10歳のエ
くして、
まう。し
逃げて遅
宙人は
きた宇
行き過
た。しかし、遠くに
驚いた宇宙人達は
UFOに戻り始め
UFOに降り始め
た。しかし、遠くに



アメリカ・郊外の
森。UFOが飛来
し中から数人の人
影が出てきて、森
の植物などを採取
し始めた。つまり
彼らは宇宙人。と
ころがUFOを見
た人間達が森にや
つてきて騒ぎ始め
驚いた宇宙人達は
UFOに戻り始め
た。しかし、遠くに

この映画で宇宙人の
姿はE.T.が定番と
なった。
誰か文句が言えない
世界的ヒット作。
不思議な繋がりをも
たE.T.だったが故郷
の星に連絡が取れた時
E.T.が倒れてしま
う…。

一人が
《Extra-
terrestrial
(地球外
生物)》と
言った為
それから
宇宙人は
《E.T.》
と呼ばれ
る事に。
エリオット
トとは、
不思議な繋がりをも
たE.T.だったが故郷
の星に連絡が取れた時
E.T.が倒れてしま
う…。

・ガティに言うが誰
も信じない。その夜、
外で見張っているとき
た宇宙人と遭遇。危険
でないかわかると、部
屋へ引き入れる。マイ
ケルとガティに宇宙
人を紹介すると、びっ
くり仰天。しかし、宇
宙人は彼らに、不思議
な力で自分のいた星を
説明。翌日、学校で
宇宙人の話を聞いた兄

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie

シネマズライフ100号

発行人：貴樹諒音

発行日：2016年3月18日

cinemaz-life@movie.nifty.jp

告知ブログ

http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

1000部入庫



体統休か
大きい調つ暖
切ににたか
にいい選りか
！まいほつ
す日んた
*々とり
おがに寒

☆100回記念として、
「百」絡みの名作を
紹介。写真は、へ百
草。い出しせず「E.T.」に日
でした。

★次回発行は4月1日。発行予定第一・三金曜日です。

§ 当世ラブキャラ列伝 § 『アラジン』 ジーニー (声を演じる人はロビン・ウィリアムズ) おなじみの【アラジンと魔法のランプ】のディズニー版。いつものディズニーの展開なのだが、このジーニーの出現で俄然面白くなる。それは演じるロビン・ウィリアムズの名人芸のおかげ。登場シーンは映画史に残る名シーン。しかし、一番驚いたのは、この話の舞台が中国の端っこだったという事。つまり、当時は中東にとっては中国は単に「不思議な場所」という感じだったそうです。

シネマズライフーcinemaz-lifeー 100号

<http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

著者：貴樹 諒音

メールアドレス cinemaz-life@movie.nifty.jp

著者紹介ブログ 『明後日の憂鬱』

<http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/2012/01/post-bcc7.html>

《ムービープラス》

『ソルト』

《ザ・シネマ》

『消されたヘッドライン』

映画の感想は現在・下記のサイトにアップしています。
ぜひ、ご覧くださいませ。

Yahoo!映画

rion_takagiのMyムービー

<http://my.movies.yahoo.co.jp/profile-g.uFIUaEfCFw6D1cq3gb5A-->

※& 他にもいろいろやってます。(^^;) ※&
お世話になっているインターネットTV
netchannel KYO

『オススメ犬映画』

<http://www.pet-c.net/column/movie/index.php>

犬の映画を紹介してます。

§§§

感想はこちらのコメント欄かメールを頂けたら幸いです。

cinemaz-life@movie.nifty.jp

§§§

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.